

令和二年を迎えて

東松山市長 森田 光一

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。皆様には、日頃より市政全般にわたってご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年10月に襲来した台風第19号の記録的な豪雨では、市内を流れる都幾川、新江川、越辺川において堤防の決壊・氾濫により、極めて広範囲にわたり家屋等が浸水するなど、甚大な被害が発生しました。改めてお亡くなりになられた方に哀悼の意を表するとともに、被災された全ての皆様に心からお見舞い申し上げます。

また、発災直後から、多くの皆様にボランティア活動や物資・義援金のご提供等を通じて、多大なるご支援をいただき、深く敬意を表す次第です。

市としても、引き続き、国や県の関係機関との連携協力のもと、一日も早い復旧・復興に向けて、

全力で取り組んでまいります。そして、危機管理体制の更なる充実を図り、ハード・ソフト両面から強力に防災・減災のまちづくりを進めてまいります。

被災された方々は、今も生活や事業の再建に向けて取り組んでおられます。また市では、全力でその支援を行っているところです。皆様には、このまちで実際に被害があり、再建に向けて頑張っておられる方々がいるということをご共有していただくとともに、今回の災害をきっかけに、私たちの地域にも災害は起こるといふ認識のもと、日頃から防災に対する心構えと備えをお願いいたします。

さて、本市では、平成27年に策定した「東松山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づく「観光振興」「産業振興」「子育て支援」の3つの柱を中心に事業を展開し、

なる税収増を図ります。

農業分野では、昨年から東松山市農林公園で科学データに基づく最先端の技術を導入したイチゴの栽培研修のほか、平日の研修参加が難しい方を対象に休日に行う農業研修を開始しました。今後も東松山市農林公園を拠点として本市農業の次代を担う人材育成に取り組んでまいります。

東松山駅周辺では、昨年10月、東口にビジネスホテルが開業しました。この春には大型商業施設もオープンするなど、より利便性の高い都市環境が形成されます。引き続き、まちの核にふさわしい社会インフラ整備を行うことで、活気あるまちづくりを進めてまいります。

また、市道第12号線をはじめとする道路整備や、土地区画整理事業を通じ、生活基盤の充実や利便性の向上を図ってまいります。

子育て支援では、これまで15歳までとされていた子ども医療費の対象年齢を、昨年8月から通院・入院とともに18歳までに拡大しまし

将来にわたって持続可能で自立したまちづくりを進めています。さらに、超高齢社会において心のもった地域福祉の充実を図ることで、高齢者が元気に生きがいを持って暮らすことのできる社会の実現を目指します。

地域福祉の充実では、元気な高齢者（アクティブシニア）の「楽しみたい 働きたい 貢献したい」といった思いを実現するための施策として、各種講座やイベント等への積極的な参加を促す仕組みを構築するとともに、就労意欲の高い高齢者を対象に求人企業とのマッチングの機会を提供します。

また、今年度から市民病院の経営形態を地方公営企業法の全部適用に移行し、新たに設置した病院事業管理者による主体的な病院経営を行うことで、医療サービスの向上に取り組んでまいります。

また、歩くことを通じて子ども

の心身の成長を促す東松山市オリジナル事業「歩育」の推進プログラムとして、歩育スタンプラリーを開催しました。

これからも「日本一子育てが楽しいまち」を目指し、子育て世帯の負担軽減や子育てイベントへの支援等を通じて、子育て施策の充実に取り組んでまいります。

こうした取組により、雇用の創出やまちの活性化、定住化の促進につながり、平成29年4月から現在に至るまで市の人口は9万人を超えています。これからもこの好循環を維持しながら、全ての市民が生涯にわたって心豊かに暮らせる「9万市民総活躍のまち」の実現に全力で取り組んでまいります。引き続き、皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとりまして幸多い年となりますようご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。



歩育スタンプラリー



東松山市農林公園



シミア(絵手紙)ボランティア



都幾川右岸小剣樋管止流部(決壊)の応急復旧工事完了



災害ボランティアの登録

産業振興では、企業誘致を積極的に進めるとともに「がんばる企業応援条例」を中心とした既存企業支援や創業支援を行うことで、経済の活性化と雇用を創出し、更